

ハーメルンの笛吹き男

- ナレーション　むかしむかし、ドイツ北部の町、ハーメルンでは、たくさんねずみが発生し、食べ物や衣類、家具や仕事の道具、はては小さな子供や病人までねずみにかじられるという事件がありました。村の人たちは必死になってねずみを追い回しあれやこれやと策を講じるも捕まえる事ができず、皆こまりはててしまっていました。
- そんなある日のことです。町に奇妙なまだら服を着た一人の男がやってきて町長さんに面会を申し込みました。
- 笛吹き男　　ワイはお前らが困っとるねずみ退治をすぐにもできるねん。どや、金貨一袋でお引き受けしましょう。ワイに任せてみーへんか？
- 町長（心）　　（金貨一袋とは、ちょっと高すぎないか。
- でも、もうできることはやりつくした。こうなったら何でも、誰でもいい。ねずみを何とかしてくれるというのなら頼もう。断ったら何かされそうだし……）
- 町長　　　　わかりました。それでは金貨一袋でやっていただきます。ですが、一匹でも残っていたら報酬は支払いません。これでよろしいですか？
- 笛吹き男　　おん。
- ナレーション　男は表に出ると広場に行って懐から笛を取り出し面白おかしい曲を吹き始めました。笛の音は町中に広がりつかれきっていた人々の心も楽しくさせるようでしたので、人々は久し振りにうきうきした気分ですら表に出てきたのですが・・・なんと！
- 道という道、大通りもわき道にまでもねずみが溢れ、広場を目指して走っていくではありませんか。
- 人々はあっけにとられてみていましたが、皆で様子を見に行きました。
- すると奇妙なまだら服を着たやせた男が楽しげに笛を吹きながら、集まってきたたくさんのねずみ達を連れて川のほうに歩いていくのが見えました。
- 川につくと男は道の端により、相変わらず笛を吹き続けます。するとねずみはあとからあとからやってきて次々に川に飛び込んでしまい、たくさんのねずみ達をあっという間に海に流し去ってしまいました。
- 村人 A　　　「ついに、あの憎たらしいネズミがいなくなったわ！」
- 村人 B　　　「これで夜も安心して眠れるぞ！」
- ナレーション　人々は歓声を上げて大喜びしました。

長い事毎日悩んでいたねずみの害からやっと逃れることが出来たのです。
ほっとしてその夜は久方ぶりにぐっすりと何の心配もせずに眠ることが出来ました。

笛吹き男 町長さぁん、約束のお金、用意できましたかー？

町長 （こっちも生活が苦しいんだ。ここは勇気を振り絞って断ろう。）
もしかしたらまだ何匹が残っているかもしれません。村人からの目撃情報もあります。
これでは、報酬は渡せないですよ。社会人失格です。
（言い過ぎた……！）

笛吹き男 約束がちゃうやないか。おん？？？

町長 契約通りです。とにかく帰ってください。

ナレーション 村人たちも、

村人 A 用すんだのに町を離れないのは KY すぎンゴ www

村人 B 服のセンスなさすぎだろ www 草生える www

ナレーション とばかりに冷たい態度を示しました。

笛吹き男 （どうなっても知らへんからな。俺の power に驚きやがれ。）

ナレーション その晩、町にどこからか笛の音が聞こえてきました。
人々はあの男だとすぐわかりましたのでぎくりとしましたが、お金をもらえなかった
男が笛を吹いてお金を得ようとしているのだと思い、それほど気にもとめませんでした。
ところがしばらくすると、

村人 C 「ぼうや！どこへいくの？」

村人 D 「なにしてるだ！ありえん！」

村人 E 「待ちなさい。」

村人 F 「まって。まって！」

ナレーション 町長や人々が表に出るとたくさんの子供達が広場に集まり、みな楽しそうに踊ったり

歌ったりして、列をなしてまちのはずれをめざしてあるきはじめました。
人々はその先頭を見てギョッとしました。あのまだら服の男が笛を吹いていたのです。

村人 C 「町長さん！こどもたちがさらわれちゃう！」

村人 D 「あの男に金を払ってよお……ええ？……払わないの？？？」

村人 E 「うちの子もいるのよ。助けてよ！」

ナレーション エブリバディが必死でしたがもう騒ぐことすら遅いほどたくさんのチルドレンは行ってしまっていました。
すぐに町の人たちは搜索を始め何日も何日も長い事かかって捜したのですが、チルドレンのゆくえは誰にもわかりませんでした。
いまではもうチルドレンの行方を知ることもなくあの男の事もドリームの中のイベントのように遠いパストのテールになってしまっていますが、タウンでは時折マウンテンのほうから楽しそうなチルドレンのラフする声やシングする声が聞こえる時があるそうです。